

令和3年度

オンライン講座

第3回

東山文化・II

03

2021
5月
No.03

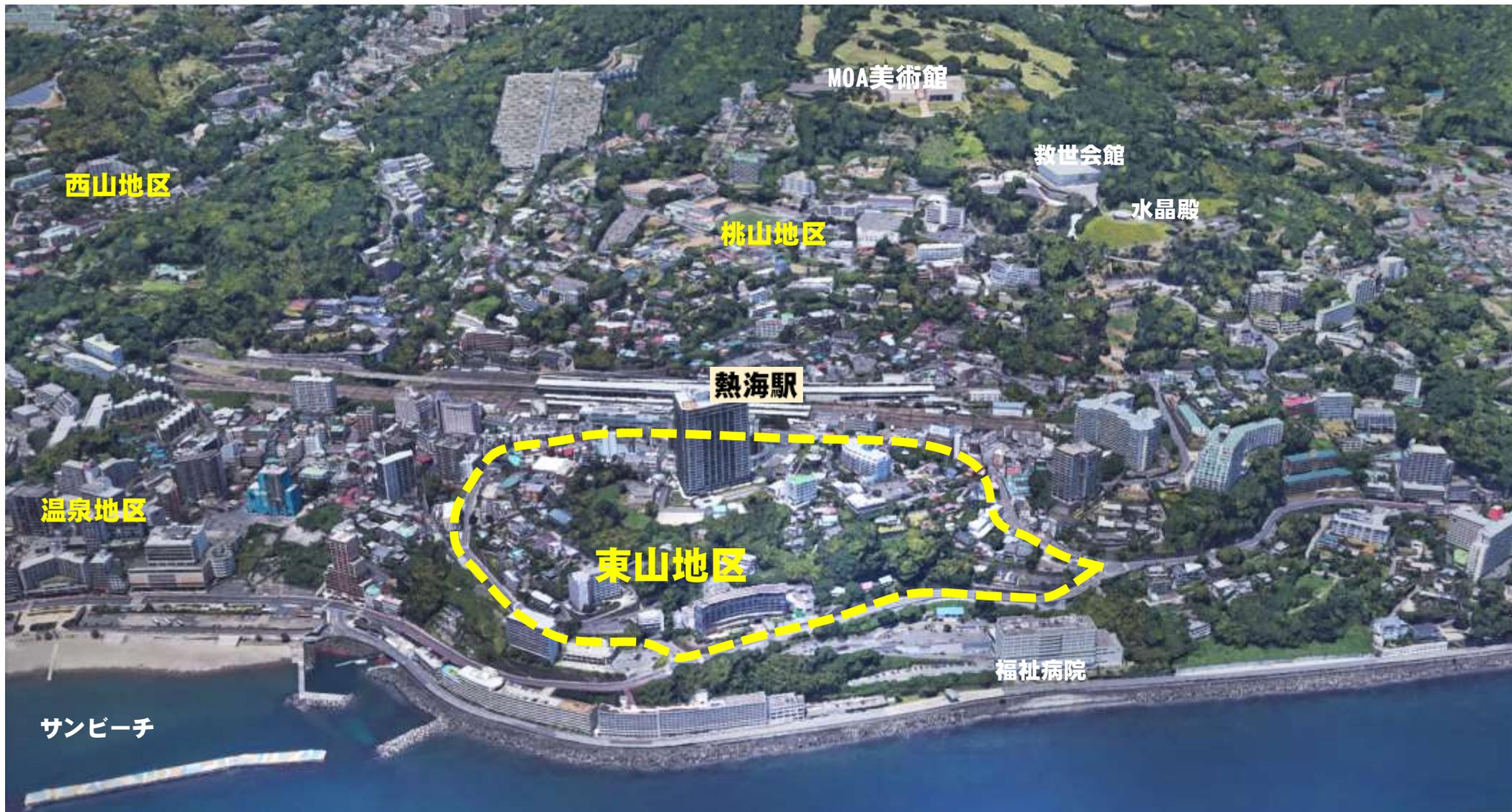
熱海ブルーノ・タウト連盟

タウト塾@熱海



■ 東山トリオ ■

熱海・東山地区



東山エリアの施設分布



東山文化を生み繋ぐ「時」と「人」・施設紹介

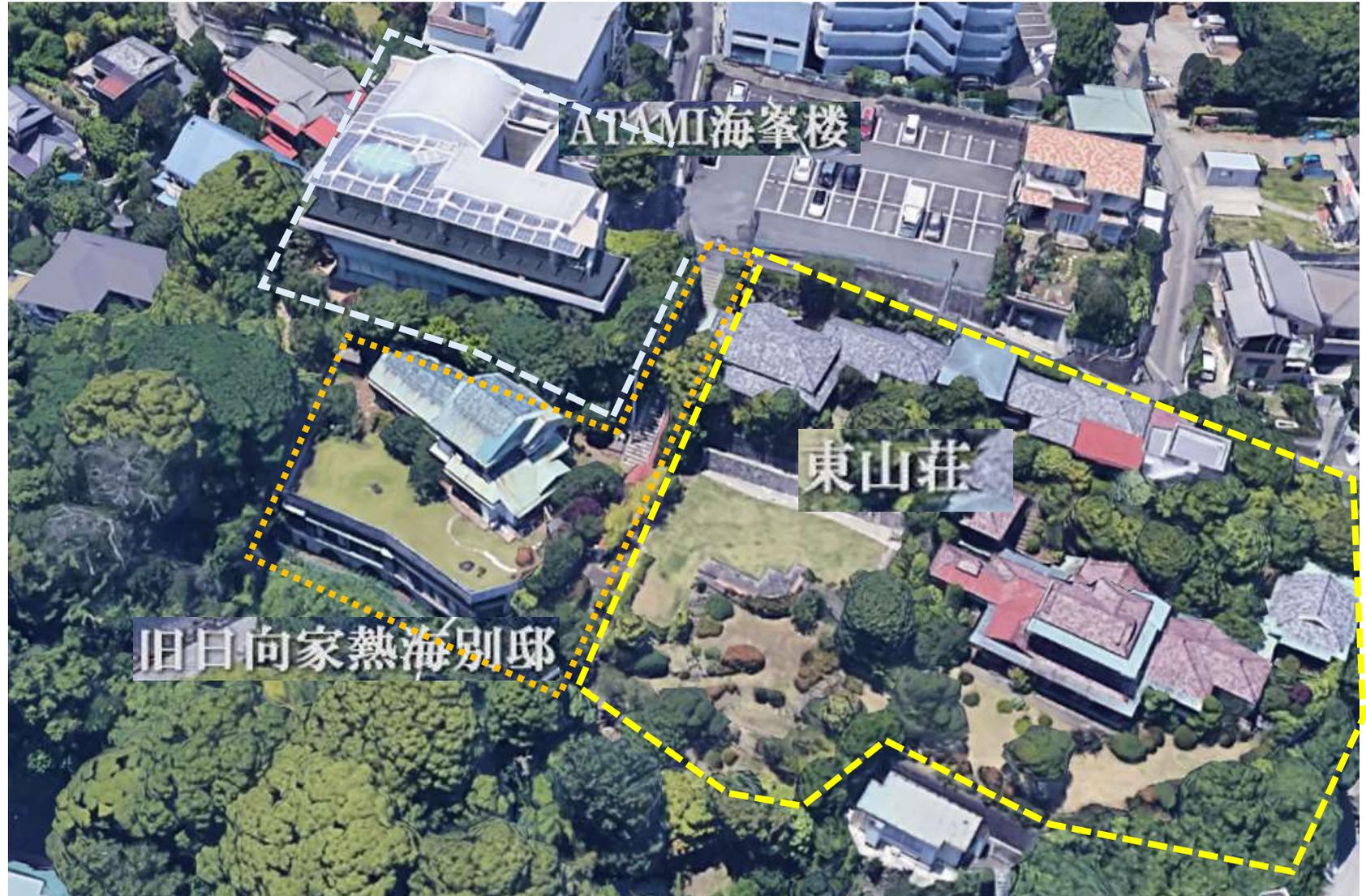
東山文化を繋ぐ 時&人

昭和	 <p>旧日向別邸 S11 東山</p>	 <p>東山荘 S08 東山</p>	 <p>杵屋旧邸 S11 東山</p>	
平成	 <p>海峯楼 H07 東山</p>	 <p> ATAMI海峯楼 1997・H7 設計: 隈研吾 旧日向家熱海別邸 1936・S9 設計: ブルーノ・タウト 国重要文化財 東山荘 1933・S8 設計: 岡田茂吉 国登録有形文化財 </p>		<p>東山トリオ 旧日向別邸 東山荘 海峯楼</p>
令和	 <p>桃乃八庵 R03 東山</p>	 <p>須藤水園 R03 東山</p>	 <p>桃山雅苑 R03 桃山</p>	

東山トリオ（旧日向別邸・東山荘・海峯楼）

現在の東山全景

- 標高約90m
- 駅約20m高い場所。
- 135号線、駅前道路に囲まれた丘
- 頂きに3つの施設が隣接し合い「東山トリオ」を構成
- 他昭和の建物が複数存在し、昭和の浪漫をかもしています



旧日向別邸

旧日向家熱海別邸

渡辺仁 による上屋
ブルーノ・タウトによる
屋上庭園の地下が地下室



竣工時の外観
(『住宅建築図集』株式会社清水組1939年)



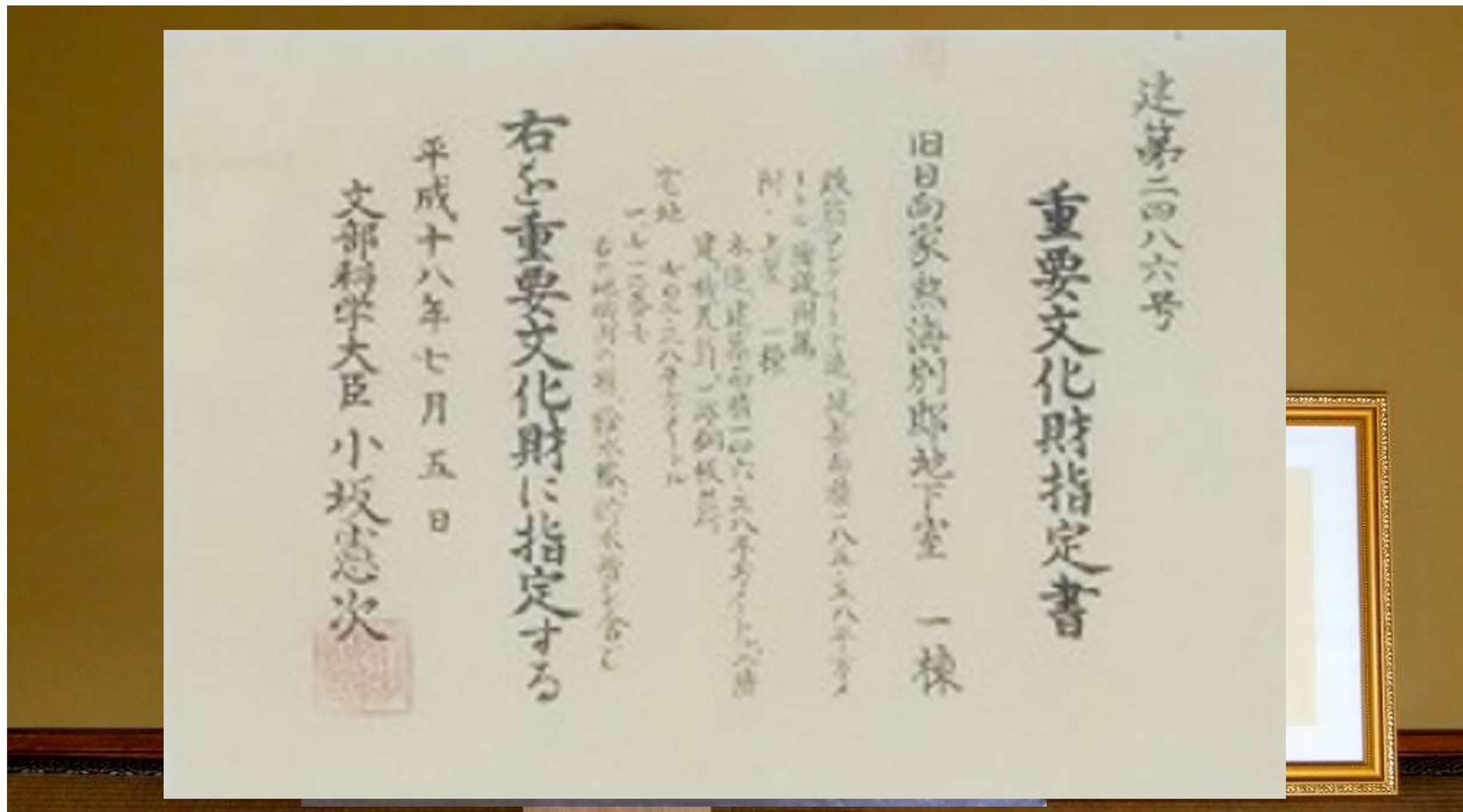
重要文化財指定書

旧日向家熱海別邸地下室 1棟

do.co.mo.mo__
2003 (H15)

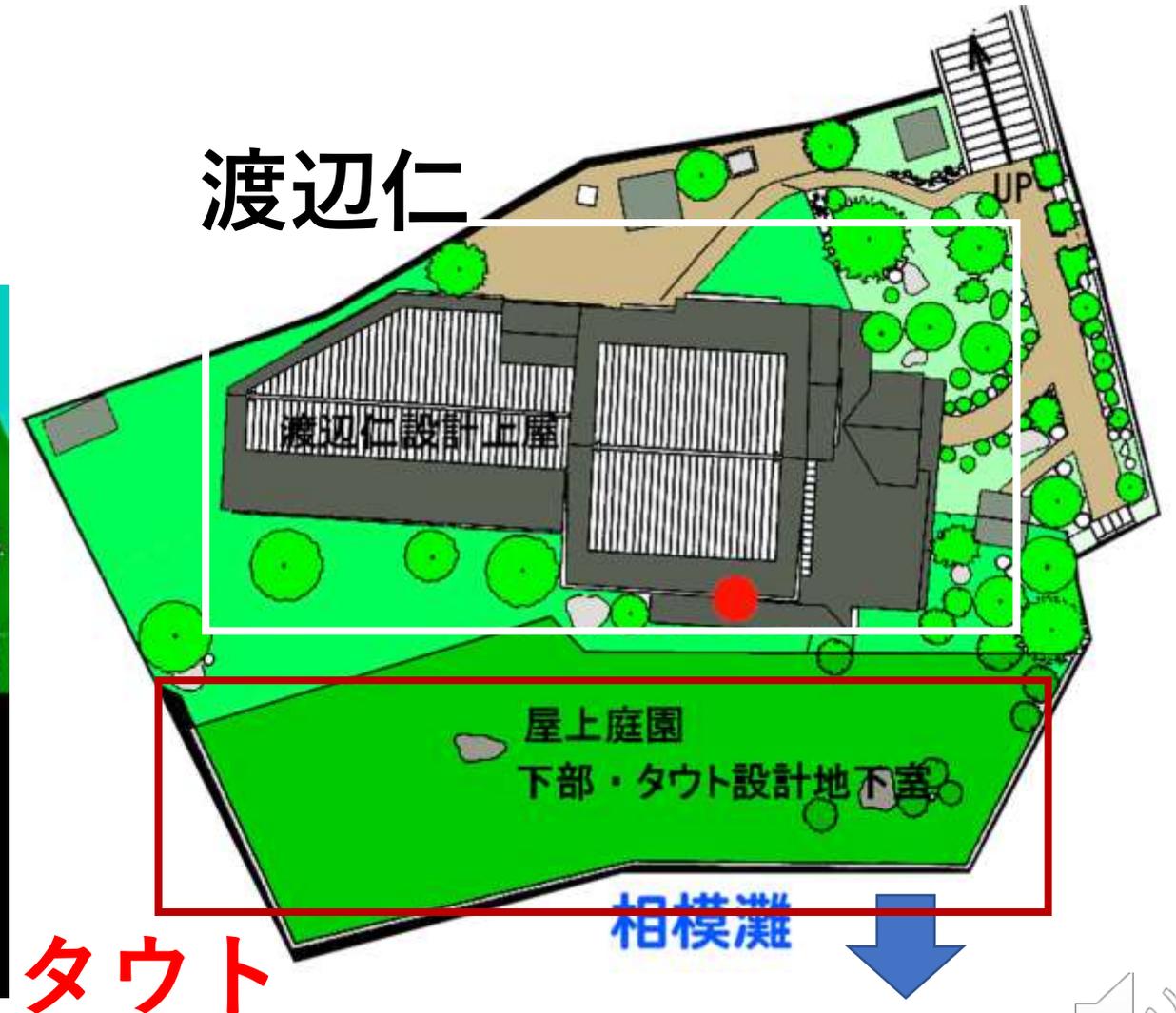
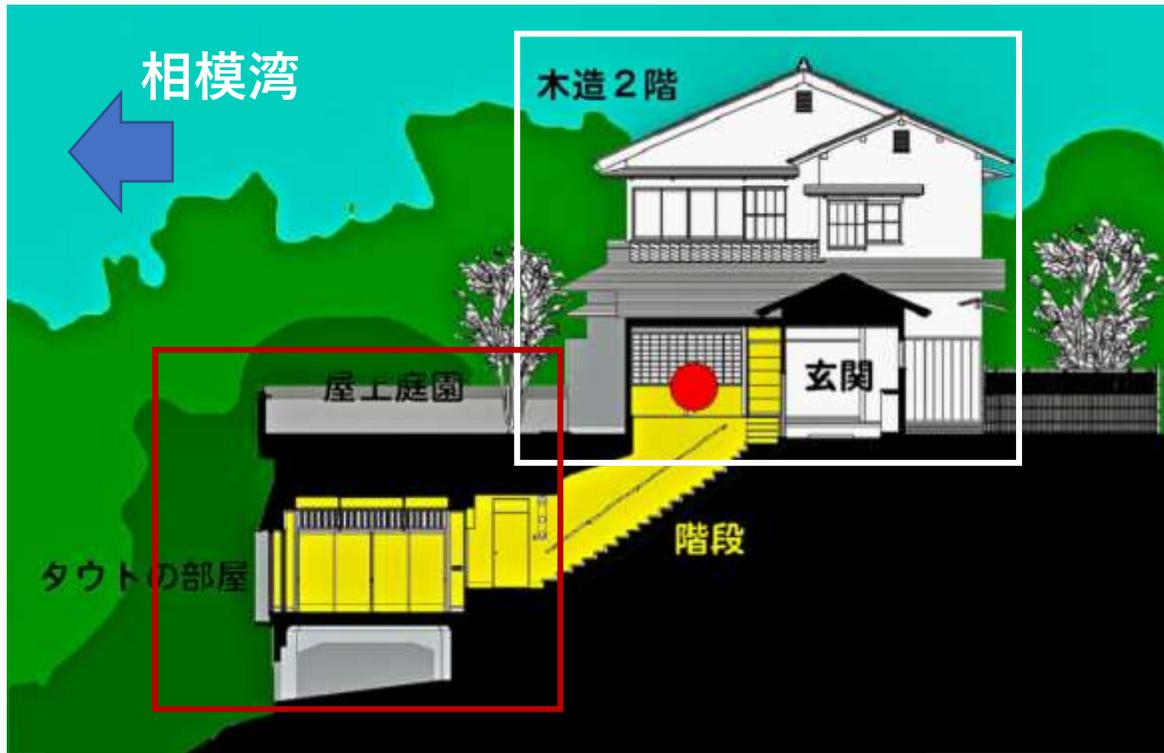
市指定有形文化財
2005 (H17)

重要文化財指定書
第2486号
2006 (H18・7・5日)



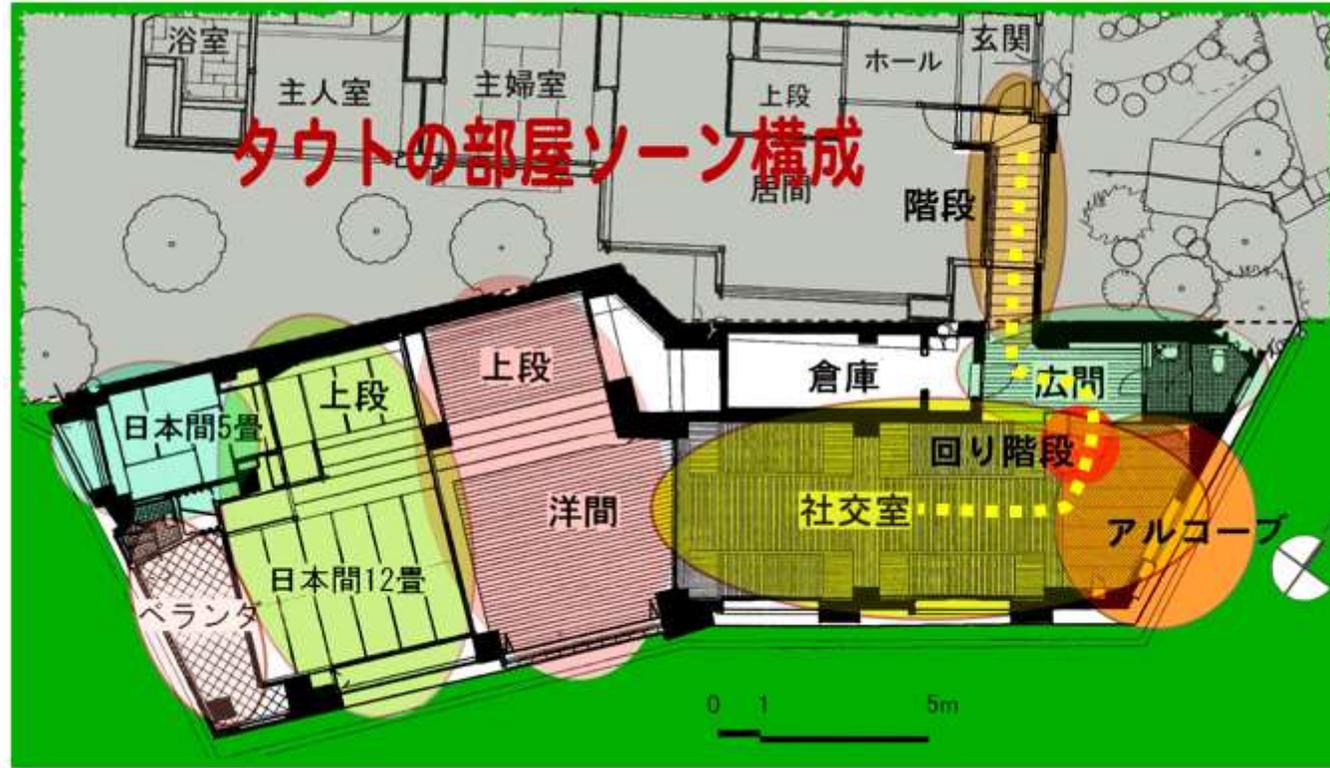
建物紹介 配置・断面

- 一期 上屋・渡辺仁設計
- 二期 土留め躯体・庭園・清水組
- 三期 地下室内装・ブルーノ・タウト設計



旧日向別邸 地下室

社交室：
洋間：
日本間：
ベランダ：



アルコーブ



ベランダ



日本間



洋間



社交室

旧日向別邸 竣工

S10.4設計

S10.7着工

(13か月)

S11.8竣工

S11.9撮影

(1か月)

S11.10離日



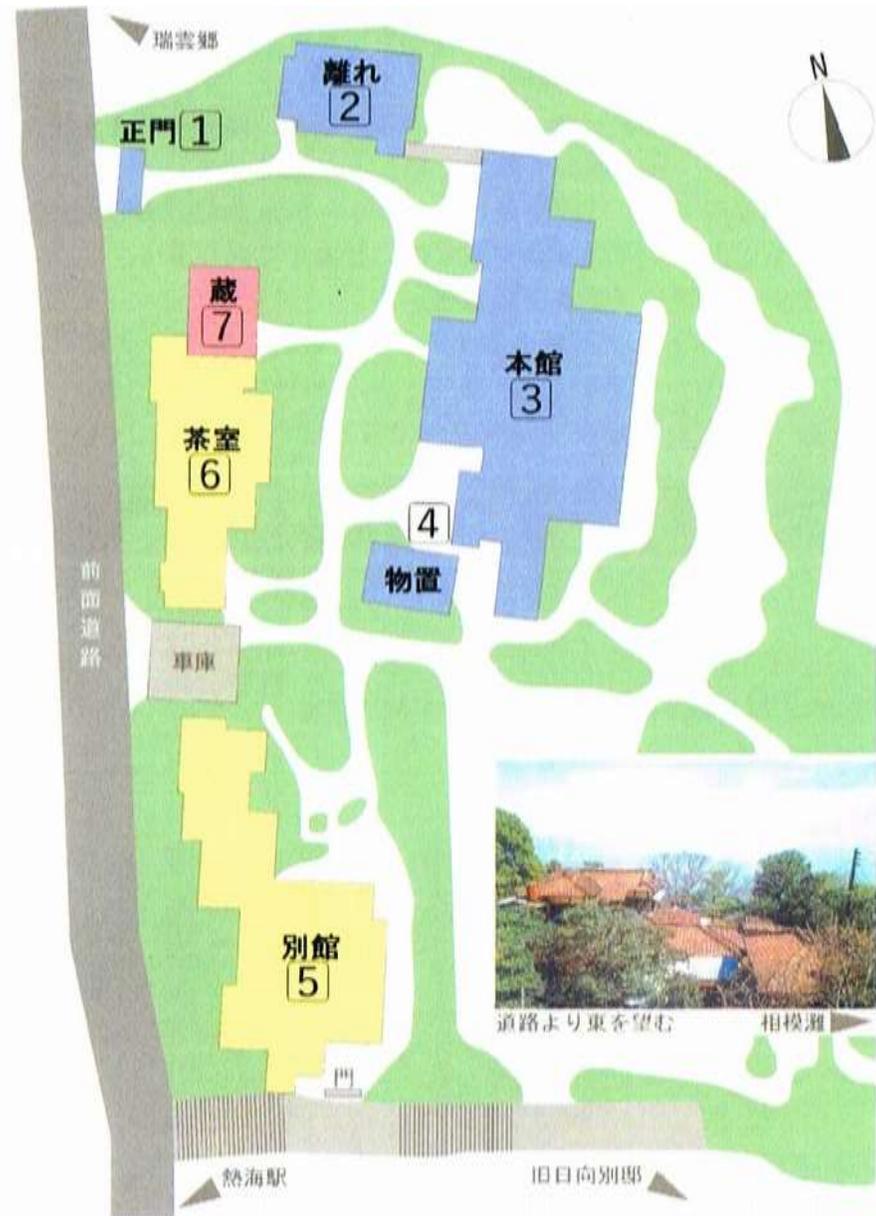
とうざんそう
東山荘

東山荘 配置図

— 全7棟 国の登録有形文化財 —
平成28年（2016年）



東山荘は、昭和8年、第一銀行頭取であった石井健吾氏の別邸として建築されました。その後、所有者が山下汽船（現・商船三井）の創業者山下亀三郎氏に移り、昭和19年に世界救世教・岡田茂吉氏が譲り受け熱海市・旧東山（現春日町）の地名を取って「東山荘」と命名されました。平成28年（2016年）に、昭和初期から今日までの歴史を孕んだ近代和風の別荘建築として貴重であると評価され、国の登録有形文化財（建造物）に指定されました。



- | | |
|----------------------------|-----------------|
| ■ 第一期 昭和8年 第一銀行3代頭取・石井健吾 | ①正門 ②離れ ③本館 ④物置 |
| ■ 第二期 昭和14年 山下汽船初代社長・山下亀三郎 | ⑤別館 ⑥茶室 |
| ■ 第三期 昭和19年 世界救世教教祖・岡田茂吉 | ⑦蔵 |

とうざんそう

東山荘



相模湾を望む敷地北東寄りに本館が位置している。

昭和8年東山荘の完成のころ、日向利兵衛は、隣接する土地を尾崎男爵より譲り受け、渡辺仁に設計を依頼している。

戦前期における熱海の別荘開発と代表的な別荘建築が集中する貴重な歴史的地区の開発の始まりの時代でした。

設計施工・清水組 敷地面積 1000坪



とうざんそう

東山荘 瑞雲郷

本館東から山側を望んだ写真です。岡田茂吉氏は毎日この雄姿を眺めては、瑞雲郷の構想を練ったといいます。現在MOA美術館、救世教会館、水晶殿他、多くの関連施設が建っています。



東山荘

正門・離れ



建設年代	建築主	建造物
第一期 昭和8年	第一銀行 3代頭取・石井健吾	1 正門 2 離れ 3 本館 4 物置
第二期 昭和14年	山下汽船初代社長・山下亀三郎	5 別館 6 茶室
第三期 昭和19年	世界救世教教祖・岡田茂吉	7 蔵



東山荘 配置図

— 全7棟 国の登録有形文化財 —



1.正門
 四脚門様式の数寄屋門。切妻屋根平入りで、屋根の仕上げは窯変瓦を用いた一文字葺き。たおやかな丸太仕事の雰囲気が漂い、数寄屋造りの特色が出ていて、別荘建築の正門としては格調が高い。当時の数寄屋工匠の技術の高さが偲ばれる。

2.離れ
 敷地北端に東西棟で建ち、本館と渡廊下で繋ぐ、一五畳大の応接室と玄関等からなる独立棟。軸部や軒に多様な樹種の丸太を使い、応接室主体部を船底天井、周囲を網代天井などとする数寄屋意匠で上品にまとめつつ、出窓風の長椅子などに当時の住宅の潮流も示す。

東山荘

本館・物置



建設年代	建築主	建造物
第一期 昭和8年	第一銀行 3代頭取・石井健吾	1正門 2離れ 3本館 4物置
第二期 昭和14年	山下汽船初代社長・山下亀三郎	5別館 6茶室
第三期 昭和19年	世界救世教教祖・岡田茂吉	7蔵



東山荘 配置図

— 全7棟 国の登録有形文化財 —



3本館

相模湾を望む敷地北東寄りに位置する。南北廊下の東側中央を二階建として、上下階とも座敷二室に縁を廻らす。下階は北に玄関棟、南に浴室を配する。全体に木柄が細く、数寄屋を加味した繊細な意匠を基調とし、東面は大きなガラス窓をたて、開放感をもたせる。

4.物置

昭和8年から今日まで使用されてきた貴重な物置。造りは堅牢で、意匠的にも吟味されていたことが2階の扉の彫刻などで覗える。屋根は本館と同じ窯変瓦を用い、敷地全体の景観を整える。

東山荘

別館・茶室



建設年代	建築主	建造物
第一期 昭和8年	第一銀行 3代頭取・石井健吾	1正門 2離れ 3本館 4物置
第二期 昭和14年	山下汽船初代社長・山下亀三郎	5別館 6茶室
第三期 昭和19年	世界救世教教祖・岡田茂吉	7蔵



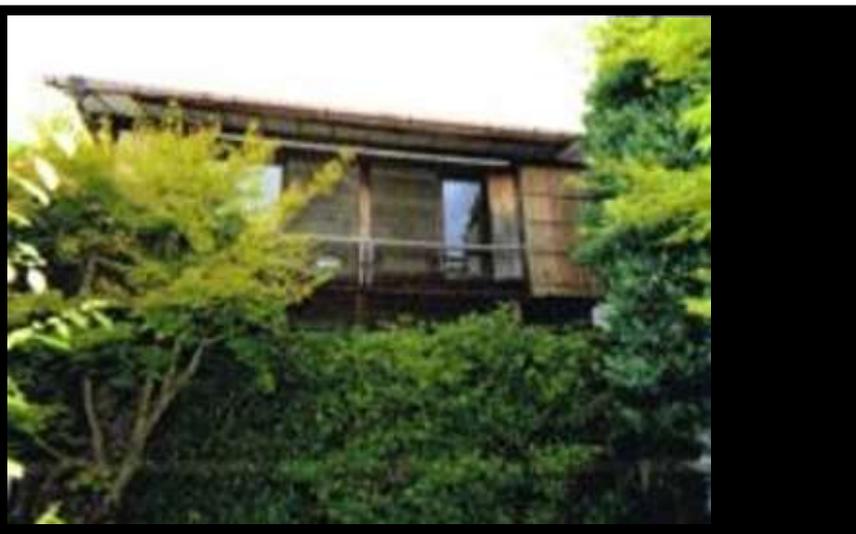
東山荘 配置図

— 全7棟 国の登録有形文化財 —



5.別館

敷地南西隅に位置する木造平屋建で、海側となる東側に座敷を雁行配置し、西に廊下を廻らせる。一三畳の主室では拭板と畳による二畳大の踏込床を残月風に仕立て、北に四半瓦敷の土縁を設ける。数寄屋風意匠と太鼓斫の梁などによる野趣を備え、独特な趣を醸す。



6.茶室

本館西側のやや高い位置に南北棟で建ち、東側の応接室に縁を設ける。離れと同様、多種の丸太を柱に使い、主室となる大炉の間では、荒加工の梁組と丸竹詰張の天井を現して民家風に見せ、大振りの座敷飾りを備える。主室のほか、六畳や浴室も備えた接客施設。



東山荘

蔵



建設年代	建築主	建造物
第一期 昭和8年	第一銀行 3代頭取・石井健吾	1 正門 2 離れ 3 本館 4 物置
第二期 昭和14年	山下汽船初代社長・山下亀三郎	5 別館 6 茶室
第三期 昭和19年	世界救世教教祖・岡田茂吉	7 蔵



東山荘 配置図

— 全 7 棟 国の登録有形文化財 —

7.蔵

本館南西側に東西棟で建つ、寄棟造棧瓦葺である。一階は敷地の高低差を利用した半地下状で土間一室の物置とし、二階は北側を出桁状に張り出した畳敷の居室で、外壁を簾子下見板張とし、西妻に出入口を設ける。別荘の保守管理の様相を伝える付属施設。



杵屋六左衛門旧邸

竣工：昭和8年（1925）

明治33(1900)～昭和56(1981)

東京都中央区生まれ。

明治～昭和期の長唄三味線方・唄方 杵屋宗家
14代目 東京音楽学校教授。

49年人間国宝。杵屋は三味線家系であったが
長唄に転向。

出典：日外アソシエーツ「20世紀日本人名事」



杵屋六左衛門旧邸

建築家・吉田五十八

吉田五十八(よしだいそや1894-1974)

東京美術学校の図案科二部で建築を学ぶ卒業後ヨーロッパの建築を見て、その伝統の力に圧倒され「日本人は日本建築によって西欧の名作と対決すべきだ」と、**数寄屋建築の近代化**に力を注いだ。

昭和11年(1936)に吉田の代表作といわれるこの杵屋別邸が熱海に完成した。「建築家が設計したのは、私が数寄屋建築をやりだしてからですよ。昔は日本間に建築家は手をつけないもんでした」と解説している。

ブルーノタウトについて、「一昨日の朝ブルーノ・タウト氏に就いての放送をはからずも聞いて、ほんとうに感慨無量の感に打たれた。**日本人は日本固有の建築を再認識してもらいたい**と同時に、タウト氏を再び思い出して頂きたい」(昭和26年)と記した。、**惜櫟荘**(せきれきそう)の話、言わずとしれた吉田五十八設計の「旧岩波別邸」のこと。



熱海・海光町「惜櫟荘(せきれきそう)」
旧岩波茂雄宅・現在作家自宅



杵屋六左衛門旧邸

【玄関】 この建物は、長唄の宗家である杵屋の十四代目六左衛門への贈物。竹で作られている珍しい踏込みが見える。田舎家風の演出である。

【応接間】 右手にある玄関からの戸は、土間の床面と同じで土足で入る。以前は絨毯敷きでテーブルと椅子が置かれていた。天井に丸太が架けられ玄関同様に民家風の造りである。

【居 間】 西洋的なあるいは現代的な美意識が日本建築になっている。吉田五十八の代表作であり、熱海の至宝とも言える建築である。

『饒舌抄』吉田五十八（新建築社）、『建築家 吉田五十八』砂川幸雄(晶文社)、『歴史遺産 日本の洋館 昭和篇II』より



ATAMI海峯楼

海峯楼は、熱海市春日町8-33、旧日向別邸に隣接した地に1995年（平成7年）03月に、ゲームメーカーのゲストハウスとして建設された。現在は、旅館として「ATAMI海峯楼」の名で営業される。

私のこの「水／ガラス」という作品の敷地は、そんなタウトの設計した「日向別邸」の隣でした。タウトの作品が熱海にあることも知らなくて、この建物の設計を依頼されて隣に建っていることを知ったときにはたいへん驚いた。

ここでも僕は、せっかくタウトの隣なんだから縁側をやろうと思ったんですね。それも水の縁側をつくろうと考えた。

（東西アスファルト事業協同組合講演会 物質性とサイバースペースより）



ATAMI海峯楼 2

なぜ**水**かといえば、ひとつの理由は、普通の縁側ですと、手すりなどの雑なものが出てきますが、水の縁側だったらすっきりするのではないかと思ったのです。そして、向こうの海とこの建物の水の縁側が一体化してくると、中にいる人間は自分が海の中に浮いているような自然との一体感を味わえるのではないかと考えました。

(東西アスファルト事業協同組合講演会 物質性とサイバースペースより)



ATAMI海峯楼 3

縁側とともに庇も深く出そうと思いました。この深い庇も建築家の中では御法度に近い。ガラスで建築をつくる人は多いけれど庇を出すということはあまりない。そういう庇というものをもう一度見直してみようと考えたのです。ですから先ほどのタウトのものとは全然違って見えますけれど、考え方は自分がタウトになったつもりでつくっています。

(東西アスファルト事業協同組合講演会 物質性とサイバースペースより)

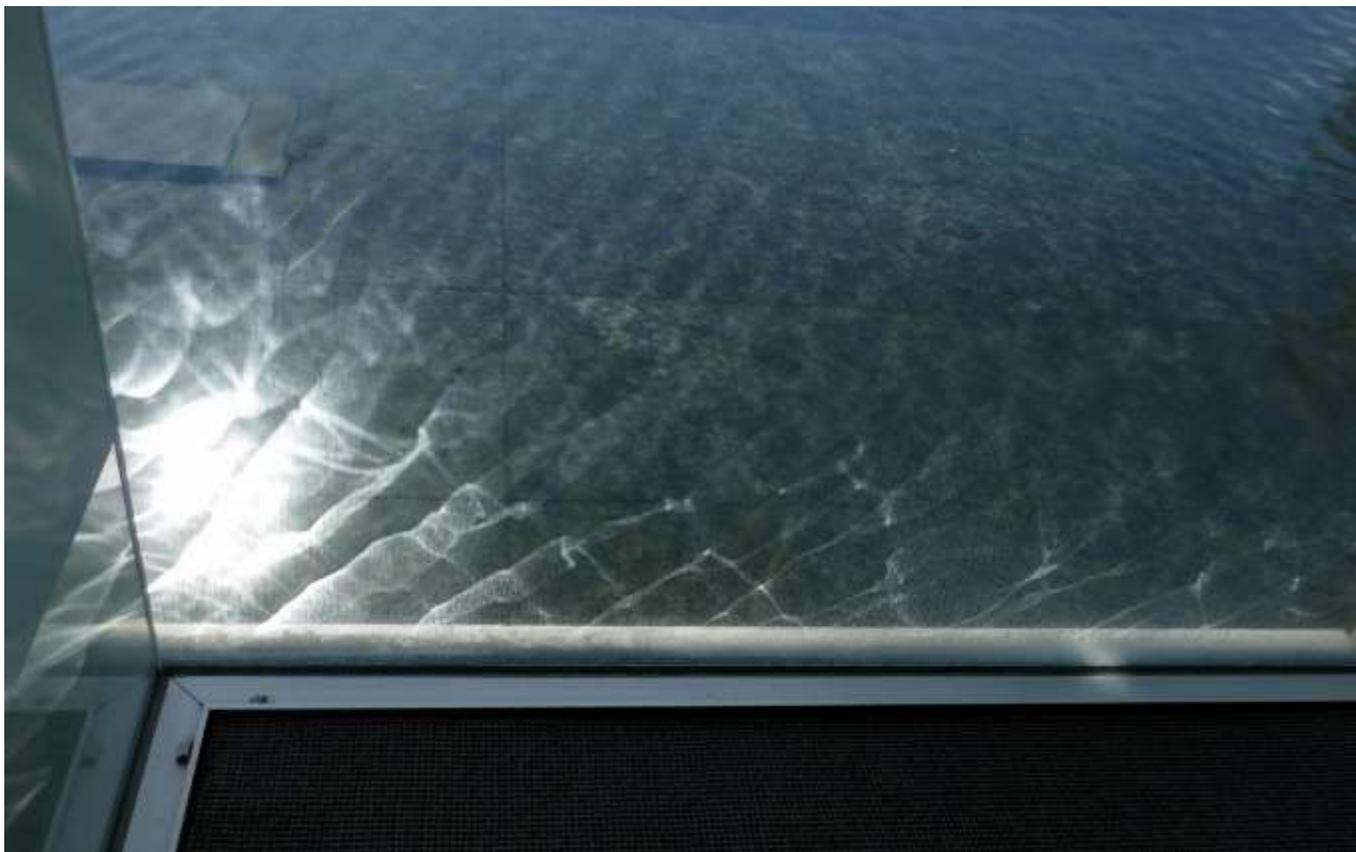


「水・縁・庇」

ATAMI海峯楼 4

朝には太平洋が霞んでいて、水の縁側と、それから室内のガラスのテーブルまで、境界がなくなって、すべてが溶け合っていきます。そういうかたちが溶け合った曖昧な状態というのが面白いと思いました。

(東西アスファルト事業協同組合講演会 物質性とサイバースペースより)



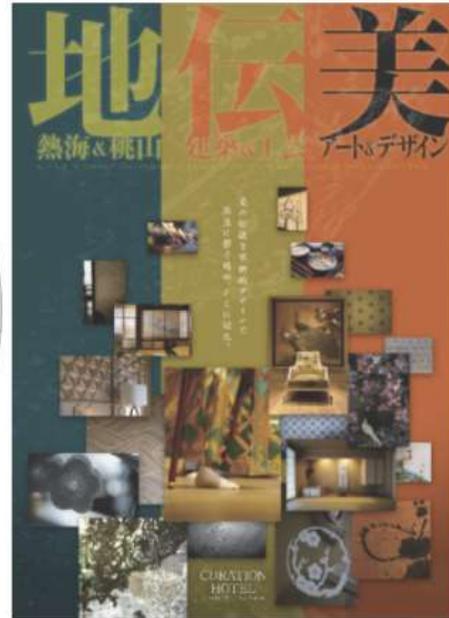
ATAMI海峯楼 5

直接光、間接光、反射光、固定した光、揺れる光、煌めく光 水と光がコラボする・・・光の小宇宙



キュレーションホテル

キュレーションホテルとは、日本が誇る美の伝統を革新的デザインで未来につなぐ「場」として、選び抜かれた伝統建築素材・伝統工芸・アートが息づく空間での滞在を提供するホテルです。



熱海東山エリアに
キュレーションホテル 須藤水園・桃乃八庵・桃山雅苑 開業

熱海新聞 令和3年(2021年)2月21日 (日曜日) 日刊

一棟貸し高級ホテル開業へ

デザイナー 沢山さん 伝統建築守り改修

東山エリア

熱海の東山エリア一帯に3月6日、一棟貸しの高級ホテル3施設が一挙オープンする。世界的デザイナーの沢山乃利子さん(61)がプロデュースし、古い旅館などを改修して伝統建築素材・伝統工芸・アートが息づく滞在空間を目指した。地域の美術・工芸を知る旅の拠点にしていきたい。

来月6日、一挙3施設

オープンするのは目黒区伐材などで改装した利きがたわった伝統桃山町の「桃山雅苑」も建築・工芸・アートな「もやまがえん」、2などを兼ねる「キュレーションホテル」。築87年の伝統建築を改修した春日町の「須藤水園(すとうすいえん)」。三つは伝統保全や歴史的建造物の元保護所をどう留意され、国家的なデザイン賞を得ている。「ザ・キュレーション」(濱一社長、桃山町)が運営し、沢山さんは同社取締役を務める。

沢山さんは「ロンドンで17年間デザイン事務所を主宰し、割合以上が改築だった。工法は伝統工法で法律も厳格な

され、築100年以上の家や街並みは未来水劫(えいごう)守られている。日本にも伝統建築や工芸はあるが、とても簡単に壊され、新建材に合わなくなった。伝統の技や工芸品は行き場をなくす現実がある。日本の伝統を守り、後世に伝えることが、英国で伝統建築の修復を生業とした私の使命。ビジネス採用できる手段としてキュレーションホテルを作った。長くロンドンと熱海の2拠点生活をした私にとって、熱海でスタートできたことはこの上ない幸せ」とコメントした。

ホテルはいずれも築100年以上。桃乃八庵は20万円から、桃山雅苑は32万円から。予約は専用ウェブサイトで行う。

熱海新聞 熱海市中央町19-14 コルト山田ビル1F 〒413-0015 電話 0557(81)0648 FAX 0557(83)3553 伊豆新聞本社 〒414-0054 伊東市鎌田1290-6 電話 0557(36)1234 伊豆新聞デジタル https://digital.izn-np.co.jp

* 左説明文・写真はHOTELIER (ホテリエ) より掲載

キュレーションホテル

桃乃八庵(とうのやあん)

熱海-東山

築88年の元旅館別館で、5年間放置され朽ちて解体寸前だった古民家を、耐震ならびに住宅性能改修含めフルリノベーション。

建築当時の豊富で貴重な伝統意匠を残し、伝統の素材と大工の技術で大胆な改装の上に、オーナー/デザイナーの目利きで集められた伝統工芸品や現代アートが加わることで、時代の新旧・洋の東西が融合された、伝統と革新が競演するデザインが完成しました。



* 説明文・写真はHOTELIER (ホテルリエ) より掲載

キュレーションホテル

須藤水園(すとうすいえん)

熱海-東山

築87年の豪華な伝統建築を改修し、耐震ならびに住宅性能を高め、オリジナルの意匠を生かしつつ、金と青をキーカラーに、琳派を思わせる華やかなデザインに仕上げています。

例えば100枚以上の障子戸は、伝統の洗いを施し、85㎡のLDKの緩い結界として再生させました。私設美術館も所有する美術篤志家のオーナー一族が、何代にもわたりこの家のために集めた美術品が新しい空間デザインの中で煌めくさまは圧巻です。



* 説明文・写真はHOTELIER (ホテリエ) より掲載

キュレーションホテル

桃山雅苑(ももやまがえん) 熱海-東山

築40年超の元保養所のコンクリート建築を、設備と耐震性能の刷新、地元静岡のきこりが切り出す間伐材、伝統素材と大工による手仕事で、和の意匠が心地いい空間にフルリノベーションしました。

指揮者であり、新進アーティストの篤志家でもあるオーナーがサポートした、アーティストの若かりし頃からの作品や、幕末期に欧州に流出した日本美術の買戻し品、伝統工芸が、ドラマティックな表情を添えています。



* 説明文・写真はHOTELIER (ホテルリエ) より掲載

東山 この永遠なるもの・・・

5月の講座は、東山文化について学んできました。今までは旧日向別邸のある場所という程度で捉えられてきましたが、少し周りを見回すことで、多くの魅力が存在し、息づいていることがわかりました。

熱海ブルーノ・タウト連盟は、昭和初期に生まれた資産が、育まれ、繋がり、新たな価値を加えて蘇るといふ 東山の地霊（ゲニウスロキ）を生かし、「東山トリオ」を中核に広く活動していきます。旧日向別邸の令和4年4月の再公開を切っ掛けとして、熱海国際観光温泉文化都市の一つの基とすべく活動してまいります。

今回をもって「東山文化」の講座を修了します。

次回の講座は、6月、7月で旧日向別邸の魅力を探ってまいります。

ご清聴ありがとうございました。

令和3年度

オンライン講座
第3回
東山文化・II

03

2021
5月
No.03

熱海ブルーノ・タウト連盟

タウト塾@熱海



No.03 END

